

# 年次支部ニュース

第9号

特集

## 卒業おめでとう



左上：女子卓球部  
右上・中段：  
新卒業生の山本怜  
選手と

左下・右下：  
世界で交流する  
新卒業生の藤林さん

## 2018年ご卒業まことにおめでとうございます。

中央大学学員会会長

久野 修慈



今年、卒業される皆さんは、社会人として、或いは大学院等に進まれる方もいるでしょう。どちらに進まれても中央大学の卒業生として学員(同窓生)となるわけです。中央大学学員会は、約57万人の全卒業生で構成されている団体です。学員会の目的は、母校中央大学への支援と全学員間の親睦交流にあります。

近年の少子高齢化社会のもとで、入学者も大きく減少にいたる「2018年問題」として、学生の確保に大学間の競争時代になりつつあります。中央大学では、一昨年中長期計画が策定され、今年は、3年目を迎え、随所にその施

策実行が求められています。大学当局が自ら確実に施策を実行することが重要なこととなりますが、学員会としても学員が一丸となって支援していく所存です。

皆さんは、これから社会人としてより充実した人生を謳歌することを期待していると思います。そのためには孤立することなく日々ご自分を高めるためにも学員会を大いに活用してください。

学員会の構成は、各卒業年度で構成する年次支部があり、各支部を横断的に交流する年次支部協議会が幅広く活動しています。また、全国の都道府県

に地域の支部、職業区分による職域支部があります。卒業生は、これらの希望する支部を選んで入会できます。そして、交流のネットワークの下にゆるぎない絆となり、終世交流を図れるでしょう。

卒業生の皆さん、健康で気概のある若者となって企業、地域社会、学校などでお役にたてるよう精進しワールドに幅広く活躍してください。我々は、皆さんが各支部に入会されることをこころ待ちにしています。どの支部からも歓迎されるでしょう。



## リーグ戦優勝の立役者

—中大卓球部エース 山本怜選手に聞く—

昨年5月の春季関東学生卓球リーグ戦で、6年ぶり25回目の優勝を果たした女子卓球部。優勝の立役者となったキャプテンの山本怜さん(22歳、文学部)。卒業後も実業団チームで活躍が期待される山本選手にインタビューした。



山本怜さん

—卓球を始めたきっかけは何ですか。山本 クラブで卓球をしていた父の影響です。小学校3年生のころから始めました。最初は父に無理やりやらされていましたが、大会で勝てるようになり、卓球を楽しめるようになりました。—中大での4年間で印象に残っていることは何ですか。

山本 やはり春季関東学生卓球リーグ

戦で優勝できたことです。この大会で優勝することがチームの目標の一つでした。今年は、強い後輩たちが入部し、練習の質も向上しました。そのため、チームとして強くなれました。また、チーム内で「春リーグで優勝する」という目標を共有できたことが、このような結果につながりました。

後輩はまだまだ団結力が欠けている

と思うので、目標をしっかりと定めてリーグ戦、全日本学生選抜卓球選手権大会、全日本総合卓球選手権大会(インカレ)で優勝してもらいたいと思います。中大での4年間は、卓球に一生懸命に取り組んだので、後悔はありません。ただ、一般の学生ともう少し交流を持てればよかったなと今感じています。(笑い)

—大会で勝ち続ける秘訣を教えてください

昨年2月に米国の名門ハーバード大学で開かれた「ハーバード大学アジア国際関係会議」(Harvard Project for Asian and International Relations (HPAIR))日本人参加者の一人に、中央大学の学生がいた。法学部4年の藤林尚斗さんだ。

HPAIRは年2回、同大学のあるマサチューセッツ州ケンブリッジとアジア地域で開催されているアジア太平洋地域では最大規模の国際会議である。世界各地の参加者たちにアジアの政治、経済、社会問題などについて議論してもらい、将来のリーダーの育成を目指すものだ。

世界40カ国から、各地域のトップレベルの学生や研究者、グローバル企業で働く社会人ら約250人が一堂に会し、6日間という短い期間で密な交流を重ねる。藤林さんは英国留学中にもかかわらず優秀な同年代に会えるという、その魅力に惹かれ参加を決意した。HPAIRを通じた出会い、成長を語ってもらった。

### 総理大臣の視座が参加資格

—なぜ、HPAIRに参加したのです

## グローバル人材の登竜門 ハーバード大学アジア国際会議に参加

うか。

藤林 当時、マンチェスター大学に留学中だった私は\*トビタテ留学ジャパンの先輩から「世界中の優秀な人材が集まる」とHPAIRを紹介されたことがきっかけで、将来、世界を股にかけたビジネスをしたいと考えていたことから参加を決意しました。

\*文部科学省が主催の海外留学奨学金  
官民共同の奨学金。

—HPAIRの特徴は何ですか。

藤林 6日間はセミナーやケーススタディで休む間もないほどの膨大なスケジュールをこなしますが、それを通じた密度の濃い交流は参加者HPAIRならではだと思います。ただ、そこに辿り着くまで、厳しい選考があります。—その厳しさというのは。

藤林 エッセイを3つ提出し、面接も受けなければなりません。面白かったものは「あなたがもし、自国の総理大臣になったらどのような政策を実施しますか」という質問事項です。まる

で、国家元首の視座を持っていることが試されているようでした。実際に、HPAIRを通じて出会った人の多くは、自分が生まれ育った国や地域の課題を解決したいと語り、そしてすでに活動している人ばかりでした。

—印象的な出会いはありましたか。

藤林 "Business & the World Economy"という分科会で、ケーススタディのチームメイトだったジョシユア・ラセイさんとの出会いはかけがえないものとなりました。彼はケーススタディで優勝するために、チームと一緒に引っ張った仲間であり、今も頻繁に連絡を取り合う仲です。

### 貪欲さ、チームを率いる万国共通の定理

藤林 ケーススタディのテーマは「停滞した、ある米国企業を再生する計画を立案せよ」というものでした。時間の制約に加え多国籍チームゆえ、メンバー間の意見の摺り合わせやモチベーションの維持に苦労しました。たとえば、朝8時から21時まで活動時間の



ださい。

山本 勝っても負けても、試合でできたこと、できなかったことを分析・反省することです。試合前は、自分がやるべきことを明確にし、試合だということを意識しすぎないように心がけています。

——今後の目標は何ですか。

山本 来年からは、実業団チームに入り卓球を続けていきます。このチームのために活躍することが目標の一つです。また、個人としては、日本リーグで少しでも上位に食い込めるようにしたいと思っています。

——ありがとうございました。今後の活躍に期待しています。

(聞き手：中央大学英字新聞学会  
編集長 八幡侑斗 法学部2年)



藤林尚斗さん

大半をセミナーや交流が占めるので、ケーススタディでは質の高い成果を出せない。準備のために滞在先の宿で私とジョシュアは誰よりも真剣に寝る間を惜しむように朝まで議論をすることもありました。期限間近のときは、周りからまるで喧嘩をしているのではないかと思われるほど真剣に議論し、そして勝利に貪欲な姿勢を行動で示すことで、チームに一体感を生み出しました。

——多国籍チームを率いる点ではどの

## 演奏会を成功させた時の達成感

中央大学音楽研究会混声合唱団  
平山 真生子

私が4年間所属していた混声合唱団で感じた事は、「一つの演奏会を作るための大変さと、それを成功させた時の達成感」です。

私たちの合唱団は、コンクールで賞を狙うというのではなく、自分たちが主体となってプロのオーケストラ、ソリスト、指揮者の方々と共に一つの演奏会を行います。そのために、歌の練習と並行して約1年前にホールを抑え、練習日程を組み、本番当日に向けて様々な業者の方とやり取りをして準備を行います。

私は主に音楽スタッフの方々との連絡担当や団内のスケジュール管理を行っていました。時には、私のミスで相手に不愉快な思いをさせてしまった事もあります。また、なかなか団内で意見がまとまらず夜遅くまで学校で話

ような工夫をしましたか。

藤林 山内惟介先生のゼミで培った争点整理の技法は大変役に立ちました。争点整理の能力を用い、意見のぶつかり合いで議論が停滞したときには、今争点になっていることは何か、そしてチームは次にどういう方向性で議論を続けなければいけないのかを示し、議論のかじ取りをすることができました。その姿勢に共感してくれたチームメイトのおかげで、お互いに支えあいながら、15チームからなる分科会のプレゼンテーション審査で最優秀賞という納得の結果を導くことができたと思います。

“地球人として社会に貢献していく”

——HPAIRの出会いでどのような学びがありましたか。

藤林 彼らは各々が考える社会問題の解決から逆算して人生設計をしていま



プロのオーケストラと歌う中大混声合唱団

し合う事もありました。たくさんの失敗や大変な事がありましたが、演奏会が終わった後に、お客さんから大きな拍手を頂くことが出来たあの瞬間は忘れられません。これから社会人になりますがこの経験を糧に頑張っていきたいと思います。

私たちは本当に多くの方々に支えられて活動ができています。先生方、そしてお忙しい中私達を応援して下さる皆さまに本当に感謝しております。これからも、後輩たちのことをどうぞよろしくお願い申し上げます。

した。既成概念に囚われない思考を心がけているようでした。また、彼らは高い目標を持ち、どんな困難も挑戦して楽しむ。HPAIRに集まった同世代の人々との交流を経て、社会的に作った国境にとらわれることなく、地球社会に生きる一員として生きていきたいという思いが更になりました。

——卒業後、次のステップは何ですか。

藤林 まずは4月からの社会人生活で成果を収めます。その後も不断の努力を続け、地球社会の問題に立ち向かい、ゲームチェンジを興していけるような人材になりたい。ジョシュアのような視座を高く持ち行動する人たちと、グローバルチームで世の中を動かしていきたいと本気で考えています。

——ありがとうございました。

(聞き手：英字新聞学会  
総合政策学部4年 加藤秀樹)



## 集え、未来の変革者 新たな同窓会「若手白門会」誕生か

世代間交流のリーダー 谷村一成さん

7000人の学生が今年、中央大学から社会に飛び立つ。法学部4年の谷村一成さんもその一人だ。しかし、門出を前にした谷村さんには一抹の不安があった。ある先輩の姿が頭をよぎったのだ。好きなことに熱中し、のびのびと学生生活を歩んでいた先輩が社会人になってからは当時の輝きを失っていった。「好きなことに、好きなだけ時間を費やせた学生時代に戻りたい」と、久々に会った先輩はつぶやくばかりで谷村さんは切ない気持ちになった。

谷村さんはその時、一つ決心した。「先輩と同じような悩みを持っている



谷村一成さん

人が生き生きと自分らしく活動できる環境を作りたい。」その悩みの要因を探る中で、彼は「卒業生の交流の場」の必要性を感じ取った。「職場と家の往復に限定された日常生活では、変化が乏しい。様々な人と出会い、異なる価値観に触れられる非日常的な出会いの場が必要だ。」その結果、誕生したのが白門若手会である。

谷村さんは自身を代表として、2017年以降の中大卒業生からなる若手白門会を今年、創設する計画を立てている。「慌ただしい日々の仕事や暮らしをたまには見つめなおして、様々な分野で頑張る同窓生との出会いや交流を通して、それぞれ個人が成長するだけでなく、そこでの出会いから新たなビジネスや社会を動かすきっかけが生まれることも狙っています」と、谷村さんは話す。それらを実現するためには総会、若手名鑑、古民家シェアハウス、3つの軸となる活動が用意されている。

総会は年に一度の交流会だ。卒業生による活動報告に加えて、現役の学生も招き、世代を超えた活動を目指す。若手名鑑はメンバーの活動や自己紹介を揃えたウェブサイトだ。谷村さんは「若手名鑑は現役生もアクセスできるように体裁を整えます。世代間交流

## 中央大学卒業後 50周年を回顧して

42年会白門会会長 小林 定寿

昨年3月、42年白門会の仲間は卒業後50年“半世紀”を迎えました。

これまでの学会と共に歩んだ支部活動を振り返ってみますと、永い年月のようで、早く感じられる道のりでした。卒業年の1967年は、社会の動きでは美濃都革新都政の誕生、大相撲では初の外国人関取、多くの人々に愛された高見山関の十両昇進が話題となり、戦後の復興・講和条約締結に努めた吉田茂元総理逝去の年でした。その年、白門を巣立った多くの仲間たちは多様な分野で「実施応用ノ素ヲ養フ」の建学精神を胸に日本の発展と高度成長を支え社会に貢献してきました。

2度のオイルショック・バブル崩壊など経済の変動の荒波に打ち勝ち、健康・家族に恵まれ卒業後50年を迎えることができました。

支部誕生を顧みますと、同期の仲間

たちも卒業25年を期に、多少ゆとりができ、学会からの勧めもあり、支部結成の機運が盛り上がり、卒業後27年の1994年に有志の献身的な努力で当支部を立ち上げました。当時、各支部が「白門〇〇会」と命名する中、当会は「白門シニ会」となり縁起を担いで「42年白門会」の名称にしたとのこと。記録によれば、設立総会は駿河台記念館で参加者230名でした。

その後、支部活動も紆余曲折、山も谷もありましたが、会員の努力と結束力で乗り越え、2004年に創立結成10周年記念・還暦を祝う会、2006年に年次支部担当代表幹事として学会の留学生を励ます集い『国際交流の集い』を主催し、2007年の卒業40周年には多摩キャンパス構内に「ハナミズキ」の植樹を行い、毎年ホームカミングデーには、「ハナミズキに集う」行事として、その成長を見届けています。そして、2014年5月25日には支部結成20周年記念として【品川プリンスホテル】にて祝賀会を開催しました。ご臨席賜った学校関係者・年次支部協議



卒業後50年  
学員懇親会  
大村理事長  
挨拶



恒例の新春初笑い落語会

会にご来賓の皆様、改めて御礼申し上げます。大学及び学会のご支援ご協力を頂き、20周年の祝典ができたことは当会の喜びであり、歴史の1頁となりました。丁度、東京オリンピック開催決定後でしたので会員の青山侑（元東京都副知事）氏に「東京とオリンピック」と題しての記念講演をお願いしました。2020年のオリンピック・パラリンピックの開催が迫った今、大変貴重な講演だったと思います。

昨年は、6月17日に卒業後50周年記念総会・記念学術講演会を【銀座サンミ高松】で開催しました。当初



の促進は両者にとってかけがえのないものとなると思う」とし、すでに学事課との連携の話し合いも進めていると付け加える。最後に、古民家シェアハウスは立ち上げメンバーの一人である2017年法学部卒業で古民家冒険家の稲村行真さんを中心に進められる事業だ。古民家の1階部分は同会の事務所兼フリースペースとして卒業生、現役生、地域の人々に開放される。2階は下宿として学生に提供する予定だ。すでに日野市と地域振興を図る拠点の一つとして話し合いを進めている。

若手白門会は谷村さんが昨年12月に打ち出してから、すでに数十人の賛同者をともない発足に向かって歩みを進めている。「長く続く会になるよう頑張りたい。年に一度の総会の成功が直近の目標になりそうですね。」歩みはじめた若手会に注目だ。(加藤英樹)

ての大学との共催・地域支部の後援の講演会では、中央大学教授「工学博士」飯尾淳先生に「人工知能の仕組みー人工知能は人間を超えられるかー」を講演頂きました。学会の皆様、OB、近隣の予備校生の参加もあり、時代の流れからも大変興味ある演題で盛況な記念学術講演会となりました。総会は懐かしい面々が一堂に会し記念総会に相応しい会になりました。第24回ホームミングデーでは大学主催の卒業後50周年祝賀懇親会が行われ、台風にも関わらず120名が集い回顧に、若さ復活に大変盛り上がりました。

振り返ると遙かな長い道のりです。共に楽しんだ友、亡き友いろいろ想いがこみ上げます。年次支部協議会を通じて縦糸の交流と素晴らしい学会を創造されました先輩・大学に御礼感謝申し上げます。2年後の東京オリンピック・パラリンピック、我が母校出身の選手の活躍を期待し、また広い分野でのOBの活躍を期待してエールを送ります。今後とも42年白門会を宜しくお願い致します。

## 祝 叙勲!!

(白門44会、45会支部)

2018年2月1日ホテルグランドヒル市ヶ谷で、白門44会支部の大西勉氏、広瀬文彦氏と白門45会支部の横山高則氏の3名の方の叙勲(2017年春秋)のお祝いの会が開かれた。

大西氏は瑞宝重光章(元衆議院調査局長)、広瀬氏は旭日双光章(国際弁理士、元弁理士会副会長~民間で頂くのは大変難しい)、横山氏は瑞宝中綬章(元東京防衛施設局長)を受賞された。



左から横山氏、大西氏、広瀬氏

中央大学では他にも多くの方が叙勲されているが、中でも3名の方は44会45会に日頃より大変貢献されている為、当日は20名近い同期生ほか親しいメンバーが駆けつけ盛會な祝宴となった。

## りえんと多摩平国際寮運動会開催

(後援：国際センター、年次支部協議会)

2017年10月8日中央大学多摩キャンパス第二体育館で留学生を交えた運動会が数年ぶりに開催された。同国際寮の留学生、日本人学生ほか80名近くの学生が参加。ラジオ体操から始まった運動会は、留学生にとっては大変難しい大縄跳びなどで苦戦しながら、他国籍でも同じ種目を心をひとつにして汗をかいていたのが感動的だった。今後、中央大学多摩キャンパスに国際寮構想があり、グローバル化に向けて是非実現して頂きたいと思う。



運動会に参加した留学生たち

ました。しかし、何か物足りなさを感じていました。私がしていたプロジェクトは、国際寮の中で完結するイベントでしかありませんでした。

このプロジェクトは社会にインパクトを与えているのか。そう考えた私は中央大学をはじめ、他大学や企業と共に社会に関わるプロジェクトを始めました。社会に関わる活動こそ、自身の生き様となるプロジェクトです。社会にどう貢献できるかを考えながらプロジェクトをすると、大学内外で協力者が次第に増えてプロジェクトの可能性が広がると同時に、自身の学びも増えていきました。

図らずも、これが中央大学の掲げる「行動する知性」ではないか。卒業後にそう感じました。国際寮で培ったプロジェクトの経験を活かし、現在は会社を運営しています。中央大学で過ごした貴重な経験を現在の国際寮や中央大学、社会に還元できるようこれからも精進して参ります。

## 活気あるプロジェクト

元国際寮長  
中村 裕 (2014年卒)



「生き様とは、あなたが生涯関わったプロジェクトのことだ。」これは大学3年の時、恩師から頂いた言葉です。大学3年から中央大学の国際寮(日野市多摩平)に住んでいた私は寮長に立候補し、プロジェクトを作ってきました。

ハロウィンやクリスマスなどの定番イベントに加え、世界の朝食会(1日ごとに1カ国、留学生が寮生に自国の朝食を作る)、多摩平オールスター感謝祭(国際交流運動会)など、国際寮に活気が出るようなプロジェクトをし



## 中大を縦横に繋ぐ 農業支援へ新しい挑戦!

白門44会支部(白門りんごの会)



「白門りんごの会」は2013年6月白門44会支部(吉永匡宏支部長)が中心となり設立され、活動目的は東北復興支援と三戸りんごのブランド向上による地域振興への貢献である。設立時より会長である松木茂夫氏(44会会長)により、年に一度青森県三戸町りんご農園への「収穫体験一泊ツアー」を開催し、5回目の昨年9月には22名の参加者があった。袋一杯のりんご収穫後、交流懇親会場では、松尾和彦三戸町長から松木茂夫会長へ感謝状が贈呈され、サプライズに会場は大歓声と拍手に包まれた。

松尾町長からは「地元出身の藤原薫氏(44年卒りんごの会副会長)を通じて白門りんごの会と青森と中大OBの交流が生まれ、三戸の町興しやブラン

ド力向上に貢献されたことに感謝します」とのご挨拶を頂いた。当日は地元青森朝日放送や青森テレビ、地元紙の「デイリー東北」から取材があり早速、その夜のニュース番組に中央大学が紹介され、今後の中大ブランド力向上への貢献にも大いに役立ったといえよう。交流会では青森県庁、白門青森県支部、八戸南部白門会の各代表者にご祝辞、感謝のお言葉を頂き、地元や近隣で活躍中のOBの参加者の方々からは近況報告や中大へ寄せる熱い思いが語られた。毎年恒例の地元生産農家の奥様方の美味しい手作り郷土料理(煎餅汁ほか)が沢山用意され、まさに生産地、三戸町と白門りんごの会の絆が温かいおもてなしによって繋がれた事を

実感する一日となった。

松木会長は「今までの中大カラーとは少し違うOB活動かも知れないが、大学と地方を繋ぐこの新しい試みは、中大を広くアピールでき、受験生の志望校選択の良きヒントとして提供できるかも」と話されたが「白門りんごの会」のご縁は更なる貢献に繋がっていくのである。

先日、中大HP(理工学部)にも紹介されたが、本年1月17日理工学部中村研究室(機密機械工学科)が青森県三戸町と共同して開発中の農業支援用アシストスーツ(負担軽減装置)の実演・体験会開催に繋がり、三戸町と白門りんごの会の協力により、実際に生産者が着用して作業体験した後、農業

## 年次支部協議会 全体会議開催される

事務局長(S46卒)半澤 勉

昨年12月16日(土)駿河台記念館550号室において年次支部協議会全体会議が開催された。当日は各年次支部の協議会幹事40名が参集し、来賓として大木田理事、木下募金推進事務局長がご出席された。会議冒頭、酒井総長・学長、大村理事長から頂いた祝電の披露の後、「平成29年度事業計画の進捗状況報告」、「平成30年度協議会幹事推薦状況報告」他、各担当幹事より現状報告、質疑応答、今後の予定連絡等があり議事案件は全て終了した。当日は2010年卒沼倉悠氏(弁

護士)のオブザーバー初参加もあった(別コーナー参照)。木下氏から白門飛躍募金応募現況報告がなされ、次に大木田理事からご自身が実行委員長であった昨年10月開催の2017ホームカミングデーには、当日の悪天候にもかかわらず、3000名を越す大勢の参加協力で大成功であった事に対する謝意

が述べられ、担当理事として学員会240支部の更なる結束強化への意気込みが示された。また活発な質問等があり全体会議は熱を帯びた2時間となった。全体会議終了後、会場を御茶ノ水「万世」に移し忘年会も兼ねた懇親会には39名が参加し、懇親会からご出席の大橋常任理事にご挨拶頂き、堀合学員会副会長の音頭で乾杯の後、各年次支部幹事参加者の和やかな交流が行われた。宴もたけなわであったが再会を期して事務局長の手締めで懇親会はめでたく納めとなった。





支援の実現可能性(りんご箱の積み降ろしなど)について生産者の皆様と意見交換会が実施された。(デイリー東北新聞、青森テレビで報道された)りんご農家の方は、「りんご箱はひとつ20~30キロで体への負担が大きく、装置は大変楽に感じた」と話され、松尾町長も「農家の高齢化に対応し、若い農家にとっても頼もしい味方になるのではとないか」と実用化に期待を寄せているそうである(デイリー東北新聞社より)。地元で活躍中のOBの皆様方が参加され、実現が本格化すれば、全国各地の農家にとっても朗報である。

(取材協力:44年卒 石田壮氏)



## 中央大学経済学部と商学部学生からの提案発表会開催

年次支部協議会2委員会(大学支援委員会、学員交流委員会)合同企画、学生によるプレゼン大会が2018年2月3日駿河台記念館で経済学部伊藤伸介教授、商学部久保知一准教授指導のゼミ学生27名と学員OB36名の多数の参加者で開催され、4チームから独自のスタイルでの現代の重要なテーマ発表があった。

伊藤ゼミの「中央大学受験生増加大作戦」では、広告班の視点から学内施設、学生の日常生活等を紹介した動画広告を使う受験生へのアピール方法等の提案とPVの概要について発表があった。「高幡不動商店街の活性化計画」では、アンケート調査等での統計分析から高幡不動エリアにおける魅力を再発見し情報発信することで地域活



伊藤ゼミ「中央大学受験生増加大作戦」



久保ゼミ「顧客間コンフリクトマネジメント」

性に役立つ方法をマップやキャッチコピーで提案した。

久保ゼミの「なぜシェアリングエコノミーの普及が進まないのか~日本人の「信頼」に着目して~」は、近年欧米を中心としたシェアリングエコノミー市場が拡大しているのに日本で普及が進まないのは基本的に日本人と米国人との信頼感が異なるという点に着目し、統計的に実証した分析結果から、日本人に合わせた新たなサービスのあり方やそれを運営する事業者の両面から利用意図向上に繋がる方法を提案。「顧客間コンフリクトマネジメント」では、SNS発展による製品ユーザー同士のコミュニケーション増加で同一ブランドのユーザー間に生じるコンフリクトを分析・マネジメントする有効な手段を提案した。

プレゼン後はOBとの質疑応答があり、活発な意見交換が行われた。このような形での現役学生とのコミュニケーションは例がなく学生、OB双方にとって刺激のある貴重な交流の場となった。OBからは厳しい意見も多かったが、就活間近な3年生が今後大変役立ちますと対応していたことや、プレゼン後の昼食懇親会で両先生が、他学部ゼミの学生と意見交換していたのが大変印象的であった。

(学員交流委員会 佐藤愛子記)

## 年次支部協議会に出席して

2010年法学部卒  
沼倉 悠

### 自己紹介

初めまして。平成22年法学部卒の沼倉悠と申します。

本業は弁護士をしており、JR千葉駅から徒歩5分の場所において、同期弁護士2名とともに事務所を経営しております。

また、平成26年から学員会千葉県支部の活動に関わっており、現在は事務局次長として会の運営に携わっております。加えて、同支部内において、平成元年以降に中央大学を卒業した会員による「平成会」の運営責任者も務めております。

### 年次支部協議会への参加

さて、千葉県支部所属の先輩にお誘いいただき、昨年12月16日に開かれ

た年次支部協議会に初めて出席させていただきました。

私が所属する「白連会2010」は、私の知る限りこれまで会合が開かれたことがなく、存在が形骸化している状況にあります。近い年次支部も概ね同様の状況にあるようです。それぞれ仕事や家庭で忙しい年代なのでやむを得ないかもしれませんが、母校を盛り立てるためにも若い世代同士のネットワークの場が必要だと改めて感じました。

### 箱根駅伝応援

続いて、今年1月3日には、年次支部協議会の先輩方と一緒に、日比谷の富国生命ビル前で箱根駅伝の応援を行いました。結果こそ総合15位という悔しいものとなりましたが、レース後に開催された慰労会においては、監督や選手らの前向きな姿を見ることができました。来年以降も変わらず応援を続けていきたいと思っています。



# 活躍する学生・お知らせのページ

## 2018年2月4日、丸亀国際 ハーフマラソンで激走!!

陸上競技部 中山 顕 選手

中大で中山顕選手ただひとり出場したこのレースは、ハーフ世界記録保持者の外国人選手や設楽、村山、佐藤悠基、神野などの実業団選手、青山の梶谷、順天堂の塩尻、駒沢の片西、山梨のニヤイロなど箱根駅伝のトップクラスの選手がそろった。そのなかで中



力走する中山選手

山は、片西、ニヤイロに負けたものの佐藤、神野、塩尻を破り15位。62分30秒の快走で、18年ぶりに板山の記録を破る中大新記録だった! 拍手!!

## Cスクエア壁面に躍る スポーツでの活動実績



学生の活躍を示す各部横断幕

# お 知 り せ

## 2017年度(第135回)中央大学卒業式・大学院修士学位授与式

(理工)日時:2018年3月24日(土)  
場所:後楽園キャンパス  
5号館4階アリーナ

(文系)日時:2018年3月25日(日)  
場所:多摩キャンパス  
第一体育館3階アリーナ

## 2018年度中央大学入学式

(理工)日時:2018年4月4日  
場所:後楽園キャンパス  
(文系)日時:2018年4月3日  
場所:多摩キャンパス

## 学会の今後の予定

- 全国支部長会議:  
2018年5月18日(金)[開催予定]
- 定時学員総会・定時協議員会:  
2018年5月19日(土)[開催予定]
- 第27回ホームカミングデー  
2018年10月7日(日)[開催予定]

### 学会とは?

中央大学では卒業生を学員と呼び、同窓会組織を学員会と称します。学員会は2015年に創立130周年を迎えた伝統を誇り、学員は57万人を数えます。学員会には支部が243あり、地域支部(国内・海外に居住・在勤する学員組織)124、職域支部(職種・企業・出身サークルなどの組織)57、そして年次支部(その年に卒業した年次の組織)62で構成されています。様々な分野で活躍している57万人のネットワークを繋ぎ、皆さんが交流・発信する場を提供しています。

**祝**

卒業生全員に「**学員会から!**  
卒業を記念して

「卒業記念Mug Cup (COACH)」を贈呈  
～学員間の絆の広がり、学員間の親睦の証～



**ご**

**業**

## 新規会員の参加を歓迎します!!

各年次支部は、同期会の集まりで大学、学員会会員との繋がりで活動しています。

- ▶スポーツ応援「陸上・水泳・野球・ラグビー他」(箱根駅伝の応援、東都大学野球応援、オリンピック選手などの応援ほか)  
**各年次支部の活動…好みの活動に任意に参加ができます。**
- ▶会員間のビジネス交流で人脈の拡大、更に先輩・後輩との繋がりを醸成
- ▶趣味の一致で、幅広い交流とコミュニケーションの充実
- ▶同期生の各職専門家との交流で、信頼感をもって問題解決への導きを図る
- ▶講演会、セミナーなどへの参画により自身の教養などを向上させる

《加入などの問い合わせ》学員会事務局: 03-3219-6175

《年次支部ニュース 第9号》 2018年3月10日 発行

発行者/中央大学学員会年次支部協議会 〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学員会事務局気付  
 発行人/相場 有二 TEL 03-3219-6175  
 編集/年次支部協議会広報部 印刷所/(株)ディスカバリー